

## 3年生の夏インターンが 本当の就活スタートに

——昨年の就活では、これまでの就活から変わった点がありましたか？

坂本 ありました。多くの人が気づいていることではありますが、**経団連の就活ルールが完全に形骸化していました。**

——結果、**経団連主導のルールは廃止になりましたからね。**

坂本 表面的には守っているふりをしていました。しかし、夏や秋のインターンなど、本当はぜんぶ選考につながっているのに、「これは採用には関係ありません」というただし書きがあちこちで見られました。

——**実質的には夏から就活がはじまっていたということですね？**

坂本 そうです。7月の夏インターンの選考試験が、最初の青田刈りになっていきますね。そこから内定につながっていく人もいます。

——**では学生のあいだでも、インターン応募が就活のスタートという意識になりつつあるのでしょうか？**

坂本 いや、そう考えているのはインターンを受けているの学生の一部だけだと思います。わかっている人はわかっている状態ですね。感覚的には、**夏インターン参加者の5人に1人は早期選考に進んでいます。**ただ逆に言うと、5人中4人にはなんの連絡もない。だから、それが裏選考だったのか、自分は進めているのか、それがまったくわからないんです。

——**選ばれた人にはどのようにアプローチがくるんですか？**

坂本 案内はメールもしくは電話なのですが、ここにも就活ルールに対する忖度がありました。「早期選考を行います」とは一切書いてないんです。「社員との懇親会を行います」とか、「見学会、質問会のご案内です」などと書いてあるだけで、**選考試験を想像させるような文言は使わない**ですね。だから呼ばれたほうも、それが早期選考だとは気づかないんです。

—では軽い気持ちで行ってしまいますね。

坂本 はい。軽い気持ちで行ってみると、たしかに見学会や懇親会ではあるんですけど、社員との面談もあるわけです。その面談も、机を挟んで向き合って座ってではなく、**面接と疑わせないようにとてもラフにやる企業が多い**んです。あえて油断させるんですね。

—そこでは学生のこういった部分が見られているんですか？

坂本 その人が学生時代なにをどんな目的で頑張ってきたのか、そこでどんなことを身につけたのか、**自社の仕事とのマッチング**はどうか、ということを雑談しながら探っていくんです。

—懇親会でそういった内容を聞かれたら、それは選考だと思っただほうがいい？

坂本 そうですね。見学会、質問会、懇親会、こういったものは**すべて選考の意味がある**とみてよいでしょう。そして、それをクリアするとまた呼ばれるんです。企業も途中からは選考ということを隠さないようになり、そのうち企業によっては「あなたは内定者と同じ実力だということを確認られたので内々定いたします」と言ってきます。もしくは仮内定。

—仮内定。運転免許みたいですね。

坂本 ただしこの裏選考の連絡はすべての学生に送るわけではないので、**内密に**願いますと頼まれます。

—早い人で、内々定はいつくらいから出るんですか？

坂本 7月にインターンの募集がはじまり、8〜9月にインターンがあって、それが終わった9月末〜10月にかけてなにかの口実で企業に呼ばれ、**内々定**が出

じめます。そして11月になると秋のインターンがはじまり、内々定はもつと増えます。

——ではこの本が出た1月は、すでに内々定をもらっている学生も多いということですね？

坂本 じつは、内々定者の数自体はそれほど多くはありません。なぜなら、特定の就活生だけに内々定が集中しているからです。夏のインターンで内々定をもらった人が、また秋のインターンでもらうなど、きちんと準備をした一部の就活生だけが、いろんな企業から内々定をもらっているんです。

——優秀な学生に内々定が集中しているんですね。

坂本 夏のインターンで内々定がもらえた人は、内々定をとるノウハウがわかっています。具体的には、企業がどういう資質の学生を求めている、それをどうやってアピールすればいいか、ということですね。そして、無駄な緊張もしくくなります。そうなると、どの企業でも高確率で内々定がとれるようになってくるんです。一度クリアしたゲームは何回でもクリアできるのと同じことです。